文書が映す安曇野の文化③

収蔵資料の中に**学校資料**があります。この資料は安曇野市内 16 校（穂高西中学校は2001年（平成13年）４月開校のため除く）に収蔵されていた 1998年（平成 11 年）度までの資料を学校教育課より移管したものです。学校日誌、職員会記録、教育計画、研究紀要、学籍簿、勤務記録、会計簿、PTA 関係、アルバム、文集などです。今回は、学校日誌を紹介します。

- **豊科：471 点**　**・穂高：333 点**　**・堀金：288 点**
- **三郷：227 点**　**・明科：332 点**　**計 1,651 点**

『昭和二十年度中川手國民學校學校日誌』の８月４日です。「南安曇分會主催初任者講習会第二回　於豊科國民学校」とあります。終戦 10 日前の記述ですが、教育会主催で新規採用者の研修会が開かれていることがわかります。文書館では学校日誌を資料とした講座を２回開催しました。参加者の感想を紹介します。

- 戦前は町や村の行事のすべてが学校を拠点として行われていた感じがする。
- 中萱の熊野神社の例祭は今、８月下旬に行われているが、戦前は４月に行われていた。いつから変わったのか。
- 長野県は戦争の被害が少なく、疎開先になっているというイメージがあったが、「遺骨を一日市場駅へ迎えに行く」「防空訓練」などの記述があったのを見て、何も知らないできた自分を実感した。

■安曇野市文書館 案内図■

利用案内

【開館時間】午前９時～午後５時
【休 館 日】土曜日、祝日、12 月 29 日から１月３日
【駐 車 場】約50台（堀金支所・堀金公民館・堀金図書館共用）

ACCESS

長野自動車道安曇野 IC から約 5km、自動車で約 10 分
JR 大糸線豊科駅から約3km、自動車で約６分

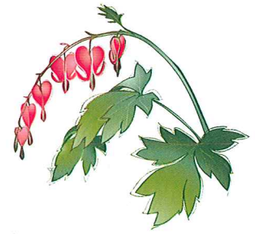
編集後記

先日、十返舎一九の研究者である丸山英二さんが研究収録『江戸時代十返舎一九が訪れた　藤森善兵衛と江戸の狂歌師との関わり』を届けてくれました。表紙に「藤森家所蔵　安曇野市文書館電子データによる」とあります。信州大学の古民家研究グループが「大庄屋関氏文書」の閲覧に何度か来館されています。講演会のアンケートに「堀金地域では文書館が周知されてきている。他地区での出前講座をお願いしたい」とありました。昨年10月に開館した文書館ですが、皆様方のご支援をいただきながら少しずつ安曇野に根付き、理解が深まっていることを実感しています。11 月 14 日・15 日には全国各地から文書館業務等に関わっている 250 人ほどの皆さんが安曇野市に来訪されます。私たちの取り組みを紹介しながら、より一層市民の皆様の文化発展に寄与することができるように職員一同研修を深めてまいります。今後も変わらぬお力添えをお願いいたします。（事務局）

安曇野市文書館

安曇野市文書館だより第３号　編集・発行：安曇野市文書館　発行日：2019 年（令和元年）10 月 31 日
〒399-8211 長野県安曇野市堀金烏川 2753 番地１　TEL.0263-71-5123　FAX.0263-71-5127
E-MAIL.bunshokan@city.azuminonagano.jp　URL.www.city.azumino.nagano.jp/site/bunsho/

安曇野市 文書館だより



第３号

企画展開催中！

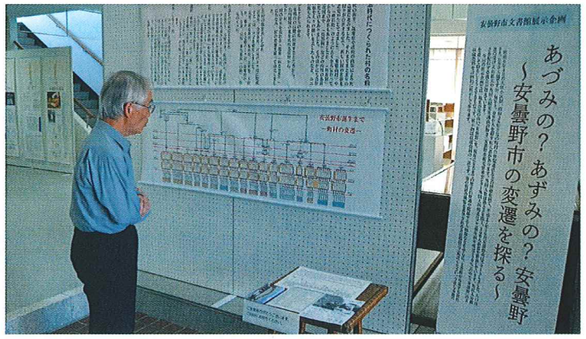
12月27日まで「あづみの？あずみの？安曇野　安曇野市の変遷を探る」の企画展示を行っております。

1873年（明治６年）４月の大区小区制、1953年（昭和28年）９月の町村合併促進法などの経過を経て、2005 年（平成 17 年）10月安曇野市はスタートしました。人口は98,000人弱ですが、転入者は、毎年 3,000人を超えます。外国人数は過去５年間1,300人前後を推移しています。外国人労働者の受け入れ拡大や外国人観光客誘致の動き（安曇野市観光情報センターによると、外国人利用者はここ数年前年度比120％）の中で「安曇野」のよさを配信する機会が増えています。

今回の企画展は、地名度の高い「安曇野」を、現在に至るまでの歴史的経過や関係する人物像などを中心に、文書館が所蔵する資料を通して紹介しようとするものです。展示物は収蔵資料の一部です。他の資料の閲覧を希望される方は職員にご相談ください。

今後も本館の収蔵資料を計画的に展示してまいります。

展示期間　2019年（令和元年）8月18日(日)～12月27日(金)
展示会場　文書館閲覧コーナー



■内閣訓令第１号
内閣訓令第１号

各行政機関

「現代仮名遣い」の実施について

政府は，本日，内閣告示第１号をもって，「現代仮名遣い」を告示した。
今後，各行政機関においては，これを現代の国語を書き表すための仮名遣いのよりどころとするものとする。
なお，昭和 21 年内閣訓令第８号は，廃止する。

昭和 61 年７月１日

内閣総理大臣　中曽根　康弘

以上の現代仮名遣いは、昭和 61 年３月６日に国語審議会から答申された、「改定現代仮名遣い」に基づくものである。
以下に、同答申の前文を掲げる。

■1986 年（昭和 61 年）７月１日発令の訓令により現代仮名遣いとしての「づ」表記が認められる。
2004 年（平成16 年）合併協議会第８回幹事会資料

第５回文書館講座　「ザ！学校　安曇野編」

町村合併や分村などの、自治体の廃置分合と学校の開校や閉校は密接に結びついています。地域と共にある学校の立ち位置について収蔵資料をもとに考えます。

【講師】文書館館長 平沢重人
【日時】2019 年（令和元年）11 月 24 日（日）　午後1時 30分～午後3時

第６回文書館講座　「バックヤードツアー」

普段、目にしたり触れたりすることができない7つの書庫や資料の整理状況、画像のデータ化などをお見せします。

【講師】文書館館長 平沢重人、文書館職員 青木弥保
【日時】2020 年（令和２年）1月 26 日（日）　午後1時 30分～午後3時

両講座共通の内容

【場所】文書館２階講義室　【申込】事前申込必要　【定員】30 人　【参加費】無料
【TEL】0263-71-5123　【FAX】0263-71-5127　【E-mail】bunshokan@city.azumino.nagano.jp

【文書館では写真・映像も収集しています】

文書館の所蔵資料は、古文書や公文書などのいわゆる「文書」が中心ですが、このほかにも写真や映像資料も保管しています。写真や映像資料も過去の安曇野市の姿を記録した貴重な資料の一つです。過去の風景・行事・災害の様子が写っている写真などがありましたら、ぜひ文書館へご一報ください。

現在、文書館にある写真の紹介

①皇紀2601年記念豊科町町民運動会

【関口氏保管古写真３】

この写真は、神奈川県在住の関口さんが長年保管されていたものです。皇紀2601年は、1941年（昭和 16 年）にあたります。その当時、豊科町では町民運動会を開催していました。

ここに撮影されている女性は、山田妙純さんという尼僧の方です。写真の裏面には、「皇紀二六〇一年拾一月三日　豊科町町民大運動会　山田妙純四十三年　知らぬ間に写されました　秋の実りの競争　町の可愛い子供に人気が在って　庵主さん勝てよ勝てよって可愛い声で応援して呉れましたのに此庵主さんとろとろ殿（しんが）りを承って子供ががっかりしました」と書かれています。当時の運動会の様子が偲ばれます。

②伊勢湾台風の被害記録

【公文書　明科 4468】

1959年（昭和34年）9月に日本を直撃した台風第15号は、安曇野市域でも甚大な被害をもたらしました。穂高町では被害が大きかったことから災害救助法が適用されています。

この写真は、穂高町から安曇野市へ引き継がれた公文書の中にあった『伊勢湾台風 災害記録』というアルバムの中の1枚です。烏川橋が途中から消失している様子が写されています。

写真に書き込まれた赤線は、橋があった場所を示しています。このアルバムにはほかにも、等々力区巾下の家屋が浸水している様子や、一ノ瀬発電所（中房第四発電所）周辺の被害の様子があります。

③高瀬川の瀬切れ

【清澤信夫氏資料『平成12年 高瀬川　渇水』】

2001年（平成13年）3月に高瀬川の水が途切れ、瀬切れとなったときの様子です。

この写真は、長年青木花見水利組合の仕事にご尽力された清澤信夫さんから文書館へ寄贈されたものです。清澤さんから寄贈された写真には、農業用水を維持管理していくために、水路の土砂を取り除き、水門の管理を行っている様子が写されています。

資料は現在整理中ですが、作業が完了次第利用に供していきます。

講演会

2回の企画展に合わせて講演会を開催いたしましたので要旨を簡単にお伝えします。
当日の配布資料や講演 DVD が資料として閲覧できます。

「近現代における天皇制とは　～明治維新から令和に至るまで～」（5月６日）――― 瀬畑 源 氏

・ヨーロッパの政治形態はキリスト教が基盤となっている。日本のそれは天皇教といっても良い。
・大日本帝国憲法時代の天皇は、統治権の総轄者であり元帥であるが、一方では憲法を守ることも明記されている。前者を重視すれば天皇主権説、後者を重視すれば天皇機関説となり解釈が異なる。
・戦後の昭和天皇は、総轄者であった頃の考え方が抜けず、政治家に内奏を要求する。また、国民と会う機会を重視した。一般参賀（1948年から）もそのひとつである。
・上皇は父以上に国民との交流を大切にし、積極的に「国民統合」を図ろうとした。
・今後の天皇制を考えるとき、国民が天皇に何を望むのかを私たちが考えることが大切である。

「安曇野文化人の系譜　～あなたが案内人～」（9月29日）――― 赤羽 康男 氏

・近現代の安曇野の文化人を知るには、小説『安曇野』をおいて他にない。
・中央から地方を見た小説は多くあるが、地方から中央を見た小説が『安曇野』である。
・石川啄木は碌山の『文覚』に励まされ、『労働者』から社会に目を向けることを学んだ。
・いい作品を残したくて家族や友人を踏み台にする芸術家は多い。碌山は人のためになる作品をつくろうとした。この思想は宮沢賢治に共通する。もし碌山が長生きをしていたら作品をつくることはせず、祈りの世界に進んだのかもしれない。
・『熊井啓の旅』を連載させてもらって思ったことは、時代への批判精神である。このことは臼井吉見と共通する。
・100年前に生きていた人のことは誰も知らない。文化の流れは絶やしてはいけない。つなげる努力をすることが今を生きている私たちの責任である。